

平成17年3月期 第1四半期財務・業績の概況（連結）

平成16年8月13日

上場会社名 名港海運株式会社

（コード番号：9357 名証第2部）

（URL <http://www.meiko-trans.co.jp>）

代表者 役職名 取締役社長 氏名 三輪 尚治

問合せ先責任者 役職名 常務取締役 氏名 近藤 久忠 （TEL（052）661-8134）

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有
（内容）

法人税等の計上基準等に一部簡便的な方法を採用しております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 無

2. 平成17年3月期第1四半期財務・業績の概況（平成16年4月1日～平成16年6月30日）

（1）経営成績（連結）の進捗状況 ・記載金額は表示単位未満切捨て、比率は四捨五入しております。

	売上高		営業利益		経常利益		四半期(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
17年3月期第1四半期	13,202	3.9	917	-	1,102	-	422	-
16年3月期第1四半期	12,711	-	-	-	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	51,058		2,906		3,394		1,625	

	1株当たり四半期 (当期)純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益
	円 銭	円 銭
17年3月期第1四半期	13 48	- -
16年3月期第1四半期	- -	- -
(参考) 16年3月期	50 11	- -

（注）売上高におけるパーセント表示は、対前年同四半期比増減率を示しております。

なお、前年同四半期については売上高のみを開示しており、営業利益等の記載を省略しております。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当第1四半期におけるわが国経済は、輸出の増加と企業の設備投資に支えられ、雇用情勢・個人消費は僅かながら明るい兆しが見え始めました。

当業界におきましても、順調な拡大が続く世界経済を背景に輸出入貨物が堅調に推移し、全般的な国内貨物動向には未だばらつきがあるものの、総じて荷動きの回復が実感出来る状況にあります。

このような状況のなか、当社グループでは、引続き積極的な営業活動による売上拡大を図る一方、業務の効率化・合理化および経費の節減に取り組み業績の向上に努めました。

これらの結果、当第1四半期の売上高は、132億2百万円（前年同期比3.9%増）となり、営業利益は9億17百万円、経常利益は11億2百万円、四半期純利益は4億22百万円となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

港湾運送及びその関連事業の売上高は116億69百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益は8億57百万円、倉庫・賃貸事業の売上高は15億33百万円（前年同期比4.9%増）、営業利益は60百万円となりました。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1株当たり株主資本	
	百万円	百万円	%	円	銭
17年3月期第1四半期	69,116	47,119	68.2	1,504	18
16年3月期第1四半期	-	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	69,262	47,054	67.9	1,500	63

【 連結キャッシュ・フローの状況 】

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
17年3月期第1四半期	53	963	336	10,594
16年3月期第1四半期	-	-	-	-
(参考) 16年3月期	2,673	2,736	464	11,848

(注)当四半期より四半期財政状態の開示を行っているため、前年同四半期については記載を省略しております。

[財政状態(連結)の変動状況に関する定性的情報等]

(財政状態)

当第1四半期の総資産は、前連結会計年度末に比べ1億45百万円の減少となりました。

主として現金預金が減少したことによるものです。また負債の減少3億43百万円は、主として賞与引当金が5億37百万円、未払法人税等が3億83百万円減少したことによるものです。

(キャッシュ・フローの状況)

当第1四半期の連結キャッシュ・フローは、営業活動からのキャッシュ・フローの増加、投資活動によるキャッシュ・フロー及び財務活動によるキャッシュ・フローの減少、これに現金及び現金同等物に係る換算差額(6百万円の減少)があり、全体で12億53百万円の減少となり、現金及び現金同等物の期末残高は105億94百万円となりました。

営業活動からのキャッシュ・フローは、53百万円となりました。これは税金等調整前四半期純利益11億1百万円が反映された一方で、賞与引当金の減少が5億37百万円あったことが主な要因です。

投資活動により支出されたキャッシュ・フローは、9億63百万円となりました。これは有形固定資産の取得による支出が7億16百万円あったことが主な要因です。

財務活動により支出されたキャッシュ・フローは、3億36百万円となりました。これは、配当金の支払額が2億68百万円あったことが主な要因です。

【 参 考 】

平成17年3月期の連結業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

		売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
		百万円	百万円	百万円
今回発表予想 (A)	中間期	26,000	1,800	850
	通期	51,800	3,400	1,650
前回発表予想 (B)	中間期	25,200	1,450	750
	通期	51,000	3,050	1,550
増減額 (A - B)	中間期	800	350	100
	通期	800	350	100
増減率(%)	中間期	3.2	24.1	13.3
	通期	1.6	11.5	6.5

平成17年3月期の個別業績予想（平成16年4月1日～平成17年3月31日）

		売 上 高	経 常 利 益	当期純利益
		百万円	百万円	百万円
今回発表予想 (A)	中間期	21,500	1,200	680
	通期	42,700	2,320	1,280
前回発表予想 (B)	中間期	20,800	1,080	600
	通期	42,000	2,200	1,200
増減額 (A - B)	中間期	700	120	80
	通期	700	120	80
増減率(%)	中間期	3.4	11.1	13.3
	通期	1.7	5.5	6.7

[業績予想に関する定性的情報等]

当社グループでは、平成16年5月20日に公表しました業績予想について、見直しを行った結果、第1四半期の業績は輸出入貨物の取扱量の増加や業務の効率化・合理化などにより予想を上回りましたので、中間期・通期の売上高・経常利益・当期純利益を上方修正いたします。

上記の業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。